

# また頑張ろうという気になった

高校統廃合の具体案が発表される事態を前にして、7月3日、湖北の母親連絡会が学習会を開きました。会場の長浜市民交流センターには、米原長浜の両市から20人が集まり、熱心な討論が続きました。

## 具体的な学校名が出たら他人事になるか 統廃合がより切実な問題に

まず、「考える会」の杉原さんが「統廃合問題の現状とこれから」と題して、以下の内容を報告しました。県は、7月12日の文教警察常任委員会で基本計画案と具体的な実施計画案を説明し、県民説明会を経て計画を策定する予定。昨年と比べ、案が示されるという一歩進んだ状況にある。しかし、昨年度のたたかひの到達点を見ると、原案が出ればそのままやられてしまう状況ではない。統廃合の三つの根拠は崩れた。計画案が出ていない段階での県民運動の盛り上がりは全国でも希である。具体的な学校名が出れば、当該校の関係者以外は他人事になる面もある。しかし地域の人や保護者にとっては、より切実な問題になる。昨年のたたかひが大きな土台になる。計画案発表後にはすぐに号外を配布し間髪入れずに県民に知らせる。7月29日に、彦根勤労福祉会館で集会を開く。8月に予想される県民説明会に積極的に参加して県民討論会に変える。

## 学校づくりと統廃合中止の運動は直結



続いて、「湖北の高校を守る会」の對月さんが長農での経験を紹介。「丁寧な学校づくりの中で、この3月に卒業させたあるクラスでは退学者を1人も出さなかった」「自分が進めてきた学校づくりと統廃合中止の運動は直結している」「名前が出

手元にある署名(ピンク色)を至急届けて下さい。

ても統廃合を止めることは出来る」と強い意志を表明しました。  
2人の話が終わると、次々に手が上がります。

## 全県一学区で競争、どの子ども大事にする教育にならないの？

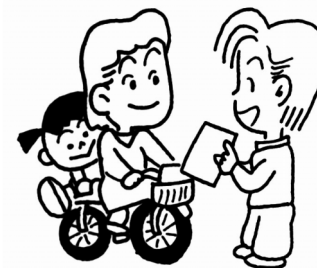
母親「全県一学区で、広い地域での競争になり本当に困る。競争競争、もっと、どの子ども大事にする教育にならないのか」

杉原「統廃合の前提となる大きな問題だ。2クラス分が南へ流れて、南から湖北へは来ない。制度が湖北の人的な過疎化を生んでいる。また多くの大津の子が大津の高校へ行けずに湖西や湖東まで行くようになった。一学区とセットの特色入試については静岡、和歌山に続いて神奈川、埼玉などで廃止の動きが急だ。統廃合問題に続いて大きな県民運動にしたい」

母親「私にも孫がいる」

母親「実は県議選で、統廃合に反対した湖北の候補が当選せず、県議会でも誰もいなくなった。伊吹高校がなくなるとの情報を知り、ガッカリしていたが、話を聞いて、これからまた頑張ろうという気になった。」

湖北の母親連絡会の意気込みは、周りの人たちを励ましています。



**ストップ高校統廃合** 2011年度速報第10号  
2011/7/4 県立高校の統廃合を考える会